

1 平均正答率等（県の平均正答率と比較して）について

- 【小学校】 国語では▼2.0%、算数では▼1.0%下回りました。（前年度：国語▼3.0%、算数▼2.0%）
 【中学校】 国語は▼1.0%下回り、数学は同じ結果でした。（前年度：国語±0.0%、算数△2.0%）

2 教科別について ○成果 ▼課題

【小学校】

- （国語）○ 「読むこと」領域の「人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる」問題
 ▼ 「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」領域の「思考・判断・表現」に関する問題
 → **授業改善と、読書活動の充実等を推奨していく必要がある**と考えています。
- （算数）○ 「数と計算」領域の「除数が小数である除法の計算をする」問題
 ▼ 「図形」領域の「思考・判断・表現」の問題
 → **立体図形を構成する要素に着目し、長さの関係を捉え、図形の体積の求め方を考えることができるよう指導が必要**と考えています。

【中学校】

- （国語）○ 記述式の無回答率については、3問ともに県平均以下となり、改善傾向が見られます。
 ▼ 「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる」問題
 → **授業の中に話し合い活動を多く取り入れる等、対話的な活動を重視していく必要がある**と考えています。
- （数学）○ 「図形」領域の「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題
 ▼ 「与えられたデータから最頻値を求める」問題、「等式を目的に応じて変形する」問題
 → **用語について正しく理解し正確に処理する場面を、授業中により多く確保する必要がある**と考えています。
- ◎ 今後も、基礎的・基本的な知識・技能の一層の定着を図るとともに、読解力や思考力、さらには自分の考えを記述したり、説明したりすることができる表現力の育成を推進する必要があります。

3 児童・生徒質問紙について ○成果 ▼課題

- 「学校に行くのが楽しい」と答えた割合が、小中学校ともに、全国・県平均を上回っています。
 → **学校への所属感に対する児童・生徒の意識は良好**と考えられます。
- 「将来の夢や目標をもっている」と答えた割合が、小中学校ともに、全国・県平均を上回っています。
 → **自分の将来を見通す力や自立心が育っており、今後のキャリア教育につながっていくことが期待できると**考えられます。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」と答えた割合が、小中学校ともに、全国・県と比べてかなり高くなっています。
 → **市全体で取り組んでいる、スマホ安全教室やスマホの使い方に関する話し合い活動の成果**と考えられます。
- ※ 「国語、算数(数学)について授業の内容がよく分かる」と答えた割合が、中学校では全国・県平均を上回っているものの、小学校ではわずかに下回っています。
 → **PDCAサイクルを確立し、指導と評価の一体化を目指す授業改善の必要がある**と考えられます。
- ▼ 小学校では、「朝食を毎日食べている」や「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と答えた割合が、全国・県平均を下回っています。（中学校では、全国・県平均を上回っている）
 → **小学校入学段階から、基本的な生活習慣の定着を図る必要がある**と考えられます。
- ▼ 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」と答えた割合は、小中学校ともに、全国・県平均を下回っています。
 → **適切な宿題の提示やタブレットの持ち帰り等を推奨し、今後一層、家庭学習の確立を図る必要がある**と考えられます。
- ◎ 今後も、教師と児童生徒との信頼関係、育まれた自尊心や自己有用感を生かしながら、誰一人取り残すことのない学びの実現に向けて、児童生徒に寄り添った指導を継続していきます。